

高原で探る、 経営の今と経営者のあり方



第2回 蓼科サマーセミナー

平成18年8月4日(金)～6日(日)
於・蓼科フォーラム

暑い東京を離れ、さわやかな風の吹き抜ける蓼科高原で、3年ぶりにサマーセミナーが開催されました。

8月4日・5日のAコース、5日・6日のBコース、そして4日から6日まで2泊3日のCコースと会員の参加しやすいスケジュールが組み込まれた普段の活動とは違ったリラックスした雰囲気でのセミナーが始まりました。

1日目

平成18年8月4日(金)

挨拶 齋藤 朝子 会長

前回より3年ぶり、第2回のサマーセミナーが、又この蓼科フォーラムの素敵な環境の下で行われる事となりました。お勉強の時間も沢山ございますが、眼をあげれば窓の外に広がる美しい緑の中で、都会や日常のお仕事からしばし離れ、いつもと違う気持ちで学べると思います。

このような行事を通して東商女性会会員の親睦を図り、一層の会員増をも祈念する次第です。それは、女性の力を結集し、大きく社会に向けて広げてゆける機会を作ることにも繋がるからです。関係各位の計画と

準備に感謝し会員お一人お一人が、このサマーセミナーから何らかを得ることができ、皆さんの懇親が深められたなら幸いです。

【研修① ワークショップ】

13:00～17:00

トレーディングゲーム

(経営感覚トレーニング)

講師 株式会社ウイル・シード

日本・フィリピン・エチオピア・中国・アメリカなど実存の国々の名前が書かれたテーブルに、3～4名の参加者がチームになってビジネス



を競うゲームです。目標は、「世界で一番のお金持ちになる事」。国連や銀行は、講師や事務局がつかめました。

与えられた封筒の中身を見て始まるリアルなシミュレーションは、実際に資源（紙）や技術（はさみ、定規、鉛筆など）を駆使して生産（丸三角などを作る）を行い、販売し、余分なお金は銀行に預金したり仕入れにまわしたりと、部屋の中の小さな「世界」の経済状態を見据えながら熱心に取り組む姿は、さすがベテラン経営者の皆さんでした。

とはいえ、各国テーブルの袋から出てくるのは、芯の折れた鉛筆など不ぞろいな物ばかり。一気に頭も手先もフル回転して、不公平な状況打破すべく交渉したりしながらトップを目指します。製品の出来が悪いと買い叩かれる、原料価格の変動、災害の発生など実際に起こりうる状況を設定し予断を許さない展開です。国連からの「終了です」の声の響き渡った時点で一番現金を手にしてきた国が勝ちという、嫌が応にも経営者としてのスキルが問われるスリル満点のゲームでした。

優勝チームに勝因を聞くと「優勝するという強い意思を持つ事」との事でした。実際の経営にも現れる予測の就かない状況にどのように対応するかなど得るところの多いプログラムでした。

チームを組んだメンバーは、同志の様な一体感を持つ事が出来て、セミナーの始まりに相応しい高揚感のあるひと時を味わえた事が大きな収穫でした。

【研修② 実践セミナー（健康）】

17:30～18:30

健康法としての太極拳

講師 楊 麻紗 会員

（楊名時太極拳養心会 主宰）

動きやすい服装に着替えて、『アトリウム』に集合。日本で40年の歴史を持つ楊名時太極拳を学びます。

この太極拳の基本は、のびやかな動きから「白鶴の舞」とも呼ばれる一連の動作です。正しく深い呼吸を伴ったゆっくりとした動作を、安定した動きとして自分のものとし、そこから得られる自己の内面との対話や、動作に込められた意味への理解



を大切に行っているために飽きる事なく続けられます。深い呼吸によって身体と心が安らぎ、自然や宇宙との調和が感じられるとの楊先生の説明に一同納得。高原の綺麗な空気の中で、ゆったりとしたひと時を過ごす事が出来ました。

【夕食懇親会① 会席料理】

19:00～21:00

*アトラクション

「誰でも知ってるシャンソン」

北澤 艶子 会員

蓼科フォーラム料理長より会席料理

理の説明を受けた後、北澤艶子会員のすばらしいシャンソンやハワイアの歌声を堪能し、合唱したり踊ったりと楽しい懇親会が催されました。その後、バーラウンジ、和室『葎の間』に分かれて二次会が行われそれぞれ夜が更けるまで交流を深めました。

（記：田中洋子）



2日目

平成18年8月5日（土）

【研修③ セミナー（IT）】

10:00～12:00

IT時代に求められる

中小企業戦略

講師 関口 和一 氏

（日本経済新聞社産業部編集委員兼論説委員）

高原でのさわやかな朝を迎え、早朝よりセミナーが開かれました。

特定のメーカーなどに偏らず、常に現場を歩んでいる関口氏に先の見えない「IT」（情報技術）に中小企業はどこまで対応して行かねばならないかという事について話をさせて頂きました。

プロジェクターを使った最新技術のデモンストレーションが画面に映し出され、なじみにくい用語を分かり易く解説しながら講義が進められました。「IT」に苦手意識の強い会員も興味深々で聞き入りました。

晴天の下、早朝東京を経ったBコース27名が正午に蓼科に到着。前日からの参加者と合流し午後プログラムが開催されました。

【研修④ 講演会（経営体験）】

13:00～14:15

経営者交替時代に起きる

問題とむずかしさ

講師 藤本 佳子 顧問

(イースタン興業株式会社取締役会長)

講師に東商女性会顧問の藤本佳子氏を迎え、長年の経営の体験を伺いました。

戦後、新橋で藤本氏の父上が創業

されたイースタンモーターズ株式会社（運輸業）、イースタン興業株式会社（不動産業）は藤本氏のご主人に託され発展を遂げました。しかし、ご主人が49歳で突然の他界。その後社長を引き継いだ人物とメインバンクの結託により、イースタン興業株式会社の買収が計画されました。折りしもオイルショック直後の不況の真つ最中。「とにかく社長になるしか会社の生き残る道はない」との信念を持ってそれまで専業主婦の藤本氏は、ご主人の友人の助けを借りてメインバンク変更を達成。見事会社の危機を乗り越えました。

以来、24年間社長を続け、座右の銘は「人との出会いを大切にする」

創業者は偉大であるが、様々な時代を乗り越えなければならぬ後継者の大変さを痛感され、その時救われたものは、続けていらした趣味の地唄舞であったという事でした。



ご自身の
 実体験に
 沿った内容
 に思わず涙
 する会員も
 見られ、そ

の飾らない人柄に女性会の大先輩として尊敬の念を禁じえない、たいへん貴重な講演でした。

【研修⑤ 講演会（社会・時事関連）】

14:30～16:00

マスコミが報じない真実

講師 関岡 英之氏

(ノンフィクション作家)

関岡氏は、36歳で銀行を退職し文筆業になられた異色の経歴の持ち主。小泉構造改革、郵政民営化、生保自由化の根本は、毎秋、日米両政府が交換する『年次改革要望書』に起因するのではないか。マスメディアは、果たしてその真実を正しく報道しているのかという観点から、現在の日本の姿を社会、経済の面から鋭く切り込んだ講演でした。又、日本の医療制度が米国に比べるとたいへん優れている事についても説明され、目から



れ、目から
 うろこが落
 ちるような
 衝撃的な内
 容でした。





【研修⑥ 実践セミナー（健康）】

16:30～17:30

自力整体で自然治癒力を取り戻す

講師 作田 清江氏
（自力性整体整食指導士）

スポーツスタイルに着替えて、メ
インロビー『アトリウム』に集合し、
「自力整体で自然治癒力を取り戻す」
実践セミナーが行われました。
自力整体とは、自分の力で身体の
「歪み」などを整える事。「歪み」の



元は、『仙腸関節』である事などの
説明の後、実際に自力整体を行いま
した。

骨盤筋肉のゆるみを引き締める腹
筋運動や、スタイルをキープする立
ち方など、普段使わない筋肉や姿勢
に会員から悲鳴や笑いが起こりまし
た。持続して実践する事が大切だと
実感し、蓼科フォーラムの大窓から
見える緑の中で、日常からの気分転
換をはかれる講座でした。

【夕食懇親会② フランス料理】

18:30～20:30

*アトラクション

「歌っていいとも！」

笠 よし子 会員

「蓼科でも気分はハワイアン」

飯沼 和子 会員



セミナーの最後となる夕食を兼ね
た懇親会が、フォーラムダイニング
で開催されました。

蓼科フォーラムシェフの渾身の地
場素材を使ったフレンチ料理と特製
ワインに舌鼓を打った後、笠よし子
会員のシャンソンコンサートと飯沼
和子会員のフラダンス披露ならびに
講習が行われ、にぎやかに又、和や
かに交流を深めました。

自由参加の二次会では、バーラウ

ンジでカラオケを楽しむグループ、

『葭の間』で会話するグループ、足
つぽマッサージを受ける会員など、
それぞれに蓼科の夏の夜を過ごし
ました。



3日目

平成18年8月6日（日）

朝食・解散 8:00～

蓼科サマーセミナーも最後の日を
迎え、朝食後帰京する会員、オプ
ショナルツアーの上諏訪温泉『ぬの
はん』での昼食と温泉体験に向かう
グループなど、それぞれ有意義に過
したセミナーを思い返しながら蓼科
の地を後にしました。

（記：石野康子）